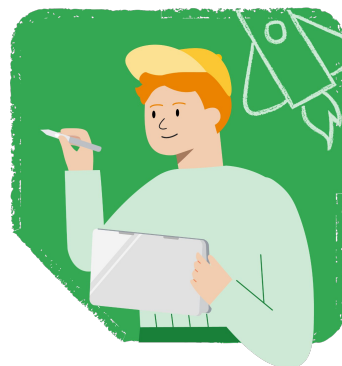
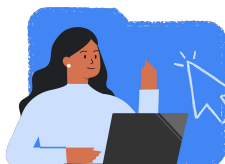
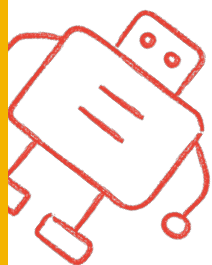


緊急時の学びを止めない サポートブック

～ Google for Education で今すぐできること ～



Google for Education

ごあいさつ

Google for Education では、令和 6 年能登半島地震をうけ、被災された地域であっても、「子どもの学びを止めない」ための支援を検討し、災害時の教育現場においてもすぐに実践できる Google for Education の活用方法をまとめた「災害時の学びを止めないサポートブック～ Google for Education で今すぐできること～（暫定版）」を令和 6 年 1 月にリリースしました。

その後も被災地域の教育委員会や現地に訪問された方など、様々な方からのお話を伺う中で、緊急時であっても子どものために懸命に取り組む姿や、被災地以外でも今後起こりうる災害に向け、どんな備えが必要かを見直す動きが全国で起きていることを知りました。

地震に限らず台風や大雪など災害の多い日本だからこそ、実際の取り組み事例を伝えていくこと、また、平常時の今だからこそ取り組める日頃からの備えを紹介していくことが重要だと考え、暫定版に

- ・緊急時対応した自治体の事例
- ・緊急時に備える日常の取り組みや環境設定

の章を追加いたしました。

また、毎年流行するインフルエンザのような感染症による休校など、緊急対応を要するケースが多いことを加味し、本誌のタイトルを災害時から緊急時に変更いたしました。

ご紹介する内容はあくまで一例ですが、みなさまの地域の状況にあわせて参考になりそうなヒントがありましたら幸いです。

※自治体の設定により、特定のアプリが使えない場合があります。あらかじめご了承ください
※本資料は、2024 年 4 月 20 日時点の Google for Education の機能をもとに作成しています

目次

第 1 章 緊急時にクラウドの力を総結集した自治体事例

.....P. 2

第 2 章 緊急時に向けた環境整備と日頃からの備え

.....P. 8

第 3 章 緊急時に役立つ Google for Education の活用

.....P. 14

第 1 章

緊急時にクラウドの力を 総結集した自治体事例



本章では、緊急事態が発生した中で、子どもたちとつながるため、また学びを止めないために取り組まれた自治体の事例を紹介します。緊急時の中でも、事前に予測が難しいものや、台風や大雨といった事前にある程度の予測がつくものまで、事例を掲載しています。

目次

- ◆ [自治体事例 1](#) (石川県能美市)
地震発生直後の不安な日々
クラウドで友達とつながることが子どもたちの支えに ……P. 3
- ◆ [自治体事例 2](#) (大分県玖珠町)
寒波襲来に備えて臨んだ一斉休校
町内全校で Google Meet によるオンライン授業を実施 ……P. 5
- ◆ [自治体事例 3](#) (沖縄県沖縄市)
新年度開始 3 日目、台湾付近の地震による津波警報発令
Google スプレッドシートで迅速に情報を収集・共有 ……P. 7

地震発生直後の不安な日々 クラウドで友達とつながることが子どもたちの支えに

取材協力／画像提供 能美市教育委員会



能美市教育委員会 学校支援課 亀田 香利 担当課長

令和6年能登半島地震の発生当時は冬休み期間でした。能美市の学校に通う子どもはChromebook端末の持ち帰りを実施していたため、子どもたちが自主的にGoogle Classroom上でクラスメイトの安否を気遣うメッセージや励ましの言葉、地震の状況を共有し、つながり合う姿が見られました。



石川県能美市ってどんなところ？



▲能美市の取り組みについて

石川県南部加賀地方に位置し、人口は約5万人。小学校8校、中学校3校。児童生徒数約4,200人。GIGAスクール構想では、「子どもと先生が、いつでもどこでも必要な時に使えるように」Chromebookを整備。「教育DX推進自治体表彰2023(主催:一般社団法人ICT CONNECT21)」では、教育DX推進自治体として表彰された。

出典: 一般社団法人ICT CONNECT 21(<https://www.youtube.com/@ictconnect2188>)



能登半島地震の発生後、能美市の子どもと先生は ①

Google Classroom 上で、「みんな大丈夫？」

2024年1月1日に発生した能登半島地震発生後、市内の多くの学校のGoogle Classroomでは、子ども同士お互いに声を掛け合う様子がみられた。「みんな地震大丈夫だった？みんな気をつけてね」「うちは物が落ちてきたり割れたりでめちゃくちゃ大変だった」と、クラスのストリーム上で、自身の状況や安否を報告する声や、クラスメイトを気遣い励まし合う声に溢れていた。多くのクラスでは、先生よりも先に子どもがコメントをしていたという。小学校2年生のクラスでも子ども同士がコメントし合ったり、タイピングが得意でない小学1年生は2学年上の姉に頼んで返信をしたり、特別支援学級の子どもは動画を

投稿したりと、自分にあった方法で投稿をしていた。亀田氏は、「個人でつながるSNSでのつながりではなくGoogle Classroomがいわば学級公式の場となり、GIGA端末がインフラとして機能していた」と話す。

Google Classroom 上でつながっている安心感

大地震という経験したことのない大きな不安の中で、Google Classroom上でクラスメイトや先生とつながれていたことは、子どもたちにとって大きな支えになったはず、と話す亀田氏。その後のアンケート結果では、「友達が無事だと聞いて安心した」「コメントを見て気持ちが楽になった」「みんな同じ気持ちだとわかって元気づけられた」といった声が聞かれた。地震発生後、各学校では保護者に安否や状況を確認する連絡を行っていたが、Google Classroom上では、各学級の担任の先生が直接子どもたちからの反応を確認できた。中には、年末年始に地震の被害が大きい地域の親戚宅を訪れていた子どももいたが、本人から直接無事を報告する声を聞いたことは安心につながった。



▲学級会長の児童がクラスメイトに向けて投稿したメッセージ



▲特別支援学級児童が動画で地震後の様子を投稿



能登半島地震の発生後、能美市の子どもと先生は ②

「デジタル年賀状」が安否を伝える手段に

ある小学校2年生の学級では、「デジタル年賀状を作って送ろう」という冬休みの宿題が出されていた。子どもたちはGoogleスライドを使って課題に取り組み、年末までに多くの子どもたちが年賀状を完成させていた。

年明けに発生した大地震の影響を受け、一度完成させた年賀状の内容を変更する子どもも多くみられた。自身や家族の安否を報告するもの、被害の大きい地域の写真を掲載して状況を伝えるもの、お互いを励ますものなど、クラスメイトや先生に今伝えたいメッセージを伝える手段としてデジタル年賀状を活用していた。亀田氏は、それぞれの子どもが置かれた状況の中で、何ができるかを考えて行動した結果だと振り返る。

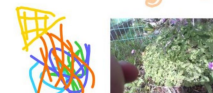
あけまして おめでとうございます。ことしも よろしくおねがいいたします。
すずへ きゅうに行くことになって、1/1大地しんにあいま
1/9に学校で、会いましょう。



すずの、大地しん後の
しゃしんです。



3学きも ーしよにがんばりましょう。



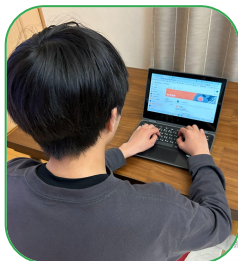
▲地震発生後、「デジタル年賀状」に地震の状況を伝えるページを追加している

市内の学校での避難者受け入れ

能美市の学校では、被害の大きかった能登地方から避難してきた小中学生の受け入れを行った。能美市教育委員会では、すぐに教育委員会や学校で保有していたChromebookの予備端末を貸し出した。並行して、Googleアカウントを即時に発行し、「学びの保障」に努めた。能美市の学校の子どもが、避難してきたクラスメイトにChromebookの使い方を教える他、教育委員会の指導主事が授業支援に入り、避難してきた子どもの学びを支えている。



日常的な活用と持ち帰りが、緊急時の活用につながる



「あんなにも余震がなくてね。
地震が来たらみんなが全部帰る
と全部帰って来たらいいな」
1月4日
先生大丈夫かな？
1月4日
昨日ご飯中にも帰れた
1月4日
今日まだ来てないね
1月4日
地震起きて部屋に近づけた
1月4日
3日くらいで最寄り駅になってたよ

能美市内の小中学校で、クラウドを活用した子どもたちの自発的な動きが見られた背景には、日常的なGoogle Classroomの活用と、Chromebookの持ち帰りがある。市内の全小中学校では、学級や授業単位でクラスルームが作成され、授業内外で先生と子どもがつながる体制が整っている。端末の持ち帰りは、小学校、中学校ともに毎日ほぼ100%という状況。こうした背景が、震災という状況下でも子どもたち自身が今できることを考えた行動につながった。亀田氏は「今回の震災を通して、日常的なクラウドや端末の活用が緊急時にも大きく力を発揮し、緊急時のレジリエンス強化にも貢献することを痛切に感じた」と話す。災害時の他、大雪やインフルエンザ等の感染症による学級閉鎖などの緊急時にこそ、いつも通り活用できる環境が生きてくる。今後も日常の延長で緊急時の活用についても考えたいという。



緊急時に「いつも通り」ができた素晴らしい事例

普段から授業内外で、先生と子どもがGoogle Classroom上でやり取りする経験があり、授業外の係活動や、家庭学習でも活発に端末を活用していることがよくわかる事例です。端末の活用を授業中のみに限定せず、いつでも使えるような環境が整っていたことも素晴らしく、その結果、緊急時でも端末やアプリを上手に活用できたと言えます。日頃から学級の中でのつながりが作られ、端末を使った情報共有にも慣れていることで、子どもたちが自然に、安否確認のみならず、互いを気遣ったり、状況報告をし合うことができ、緊急時でも「いつも通りのこと」ができていたことがポイントです。



東京学芸大学教職大学院
教授 堀田龍也 氏

寒波襲来に備えて臨んだ一斉休校 町内全校で Google Meet によるオンライン授業を実施

取材協力／画像提供 玖珠町教育委員会



玖珠町教育委員会 GIGA スクール推進室 衛藤公彦室長

悪天候による休校判断は、様々な事情を考慮するためいつも”ギリギリが通例”でした。しかしクラウド環境下においては、オンラインでも十分学びを担保することができ、そのため早めの休校判断ができ、先生の対応にも余裕ができました。この決断ができたのも、日頃からクラウド活用が根付いている玖珠町だからこそだと実感しています。



大分県玖珠町ってどんなところ？



▲ジュニアICT
リーダーとは

大分県の中西部に位置する人口約 1 万 5,000 人の町。小学校 6 校、中学校 1 校、不登校特例校 1 校 (2024 年 4 月開校)。児童生徒数約 1,000 人。GIGA スクール構想で 1 人 1 台端末環境を整備。街の担い手として ICT を主体的に活用してほしいとの願いから「ジュニアICTリーダー」の育成に力を入れており、取り組みは 2022 年に日本 ICT 教育アワード (主催: 全国 ICT 教育首長協議会) で表彰された。



大雪予報からオンライン授業実施までの流れ

2 日前: 午前「今季最大の寒波襲来」の予報が発表された

教育委員会は午後に休校措置の協議を開始。その間、気象台から届く情報を Google Chat で校長たちへ共有していた。教育長の、子どもたちの安全と学びを止めない事を最優先事項にするという方針のもと、教育委員会は寒波襲来日の町内一斉休校を決定。即座に Google Chat で各学校へ連絡し、その後保護者へも一斉メールで発信した。



▲校長会チャットで天候状況等を共有する様子

前日: オンライン授業への備え

各学校では、オンライン授業に備えて時間割を検討したり準備をしたりした。特にコロナ禍以降に採用された若手の先生の中には Google Meet には慣れていても子どもが自宅にいる状態でのオンライン授業を経験していない先生もいたため即興でミニ校内研修を開きノウハウを伝え合った学校もあった。その様子もまた Google Chat で報告し合った。



当日: オンライン授業実施

出勤可能な先生は学校から、雪の影響で出勤できない先生は自宅からオンライン授業を実施。教育委員会の衛藤氏と一部の先生は県外出張のため町内にもいない状態だったものの、それぞれチャットで町内の様子を確認したり、空港から会議に参加したりした。子どもの目の疲れを考慮し、授業時間を短縮する学校もあった。オンライン授業初体験だった小学校低学年の子どもたちも授業に参加しながらハウリング (音の反響) 対策などを身につけた。



結果

先生たちは「クラウドを活用すれば急な休校措置でも対応できる」と自信がついた！



クラウドの日常づかいの自信がもたらした様々なメリット

Before: クラウド活用定着前

これまで休校措置などの判断は『学校の実情を踏まえ各学校判断で』と、任せていたと話す衛藤氏。しかし校長としては「教育委員会の判断で」という理由がほしいもの。当然、悪天候とならず休校判断が“空振り”になり、子どもたちが自宅でゲーム三昧なんてことは避けたかった。様々な事情を踏まえ情報収集を行うと、最終的な判断は当日の早朝に下すのが通例で、それによって各所バタバタの対応が求められた。

～様々な心配事の例～

(校長)子どもの安全が第一。でも授業時数確保のために、なるべく休校は避けたいなあ



(地域・保護者)こんな状況で子どもたちに登下校させて大丈夫？

(教育委員会)給食やスクールバスのキャンセルの判断はどうしよう



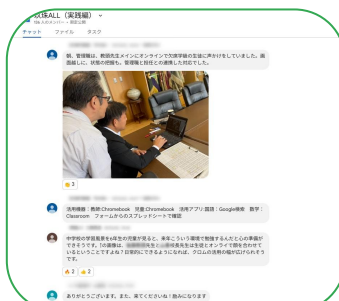
(保護者)急に休校って言われても会社休めないし、子どもの預け先はどうしよう

After: クラウド活用定着後

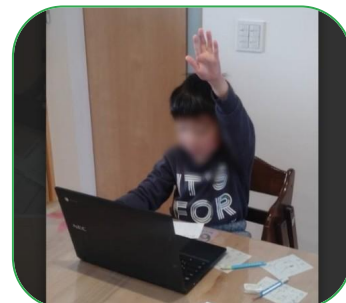
「これまでは天気というコントロールできないものに振り回されていたが、クラウド環境の活用によって、休校するか否かではなく、子どもたちの安全を担保した上でいかに学びの保障ができるかという事にエネルギーを注げるようになった」と衛藤氏は話す。

本事例で、Google Meet 以外にさっとつながる手段として活用された Google Chat。玖珠町では活用推進だけでなく、全教職員 130 人以上が参加するチャットを通して積極的な情報共有・実践共有を行っている。中でも校長会チャットは他に先駆けて 2022 年 4 月に立ち上げ、今では互いの電話連絡はほとんどがチャットに置き換わった。

また、ある学校ではコロナ禍の経験を踏まえ、平時にあえて学校での授業を午前で切り上げ、午後は学校と自宅をつなぎオンライン授業を実施する訓練を定期的に行っている。端末の持ち帰りは、すべての学校で日常的に実施。子どもたちが家庭で端末を使用する様子を見て保護者の理解も深まってきた。こうした日々の積み重ねの効果が発揮された。他にも、早めの休校判断は保護者が仕事の都合をつけやすかったというメリットや、給食の食材廃棄を削減した、スクールバスのキャンセル料が節約できたなど、財政的な副産物も生み出した。



▲Chat で各校の取り組みを共有する様子



今後のさらなる備えのために



玖珠町では、今回の取り組みを各学校で振り返り、記録を共有するための準備を行っている(取材当時)。また、悪天候ではなく感染症による休校時は、子どもの体調に配慮する必要があるので一斉オンライン授業ではなく、他の形を模索する必要があると衛藤氏。2021 年から継続しているジュニア ICT リーダー育成事業に参加した子どもたちが情報発信のスキルを活かし、災害時に地域と連携した活動を担ってくれる事も今後の展望のひとつ。



オンラインでどう学びの保障ができるか、知っていることの大切さ

日頃の地道な活用が、緊急時の素早い判断を促したのは素晴らしいことです。玖珠町では日常的に様々なオンラインの学習体験があるからこそ、いざという時に、先生たちはオンラインでもある程度学びが提供できることを知っていて、教育委員会も先生たちがどのように取り組んでくれるか、きちんと把握できているのだと思います。そのことが速い判断を生み、子どもたちの学びの保障につながり、無理をしてでも登校・出勤をしていた頃とは違って子どもたちや先生の身の安全を守ることにもなりました。オンラインでどう学びの保障ができるか体験し知っていることは大切です。



東京学芸大学教職大学院
教授 堀田龍也 氏



Google
スプレッドシート

津波

沖縄県沖縄市

新年度開始 3 日目、台湾付近の地震による津波警報発令 Google スプレッドシートで迅速に情報を収集・共有

取材協力／画像提供 沖縄市教育委員会



沖縄市教育委員会 教育研究所 研修係長 仲間悦子氏

台風対応には慣れている沖縄県ですが、2024 年 4 月に発生した台湾付近の地震による津波への対応というのは初めてのことでした。とっさの判断でスプレッドシートを活用して各校へ情報共有を依頼しました。幸い津波の被害はなかったものの、長期休業中でも学校では部活動があったり、近隣住民の受け入れなど災害対応が求められるため、迅速な情報収集や、先生方の気づき・課題を見える化して蓄積できる共同編集の良さを再確認しました。



沖縄県沖縄市ってどんなところ？



▲沖縄市の取り組みについて

沖縄県の中部に位置し、県内では 2 番目に大きい約 14 万人の都市。小学校 16 校、中学校 8 校。児童生徒数約 1 万 4,000 人。GIGA スクール構想開始以降、推進先生“エバンジェリスト”の育成やクラウド活用の市内全体での浸透に注力してきた。2023 年度より 2 年連続で文部科学省リーディング DX スクール事業の指定を受けている。



全 24 校の情報がすぐに集められた情報共有シート

校	1	2	3	4	5	6
1	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
2	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
3	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
4	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
5	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
6	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
7	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
8	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
9	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
10	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
11	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
12	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
13	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
14	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
15	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
16	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
17	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
18	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
19	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
20	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
21	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
22	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
23	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校
24	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校

所として 開放施設 の有無	開放施設	避難所受け入れ最大人数（概数可） 可能な場合は、大人・子供の内訳	備品品提供数	避難時の IP 無線 の持ち出し有無	IP 無線の通信 できたか
有	体育館	大人（地域住民）2 名、本校児童 7 名	水 8 本	無	できた
有	体育館	児童の児童 27 名、引率 3 名 大人 37 名	水 20 本	無	できた
有	体育館	児童 児童 63 名、引率 4 名 地域住民、子ども 6 名、大人 4 名	無し	無	できた
有	体育館	大人（保育園職員）20 名、子供（保育園）75 名	無し	無	できた
有	体育館	地域住民 3 人（大人 2、子ども 1）	0	無	できた
有	校庭、体育館	観光客 5 人、地域住民 1 人	水 6 本	無	できた

今回の対応に対するご意見、課題等
IP 無線の充電について、日常的に確認しておこなっていたつもりだったが、今回の利用でバッテリーの残量が最終的には残りわずかだった。長時間の利用に不安が残った。
○一次避難場所が適切ではないことが確認できた。
○市民の避難を誘導したが、児童と一緒に避難するのは難しい。
○体の不自由な子がいる場合の移動手段がない。
○学校が避難場所ではないというものの周知不足。
・生徒の登校日でなかったのは幸いでした。非常時の職員の動きを確認する機会にもなりました。

午前 9 時ごろの津波警報発令を受けて、教育委員会では避難開始直後に人的被害や避難受け入れの状況を把握するため、Google スプレッドシートを全校に共有した。Google フォームよりも互いの情報がリアルタイムに把握でき、シンプルに情報収集できると判断したと、仲間氏は話す。授業・校務ともに日常的にクラウド活用をしている先生たちは、ファイルの共有とほぼ同時に記入を開始。教育委員会は、部活動で登校していた生徒らを避難させたことや、IP 無線のバッテリー持ちに不安があったことなど、リアルな状況がすぐに把握できた。特に課題・気づき欄には多くのコメントが寄せられたことは今後の備えのための大きな収穫になったという。



脱 FAX の実現と緊急時対応の学び合い

Before: クラウド活用定着前

台風時などはまさに FAX の嵐だった。FAX は一方的に送信することはできても相手の反応を確認できないため、電話連絡も避けられなかった。指導主事全員で各学校の状況を電話で聞き取りたりしていた。

After: クラウド活用定着後

リアルタイムの情報共有と、情報の蓄積が同時にできた。担当の先生が、他校の報告を見て不足している観点を追記していったことにより、シートの内容が更に充実していった。一方教頭先生は、自校と他校の取り組みを比較して参考にすることができた。市の防災担当部局からの状況調査へも依頼直後に対応し、その速さに驚かれたという。電話や FAX での連絡は史上初めてゼロとなり、省力化・ペーパーレス化にもつながった。

第 2 章

緊急時に向けた 環境整備と日頃からの備え



本章では、緊急時に向けて、日頃からどんな備えをしておくといいいのかについて紹介します。第 1 章の事例で共通する点は、緊急時に柔軟に対応できるような環境が日頃から構築されていることに加え、日常的に端末を活用していたことでした。何かあってからではなく、何かあったときに向けて今から備えられることの一例を掲載しますので、ご参考になりましたら幸いです。

目次

- ◆ 管理者ができる環境構築 P. 9
- ◆ 先生ができる日頃からの備え P. 11
- ◆ コラム:クラウドを活用し日頃から備える自治体の事例 P. 13

管理者ができる環境構築

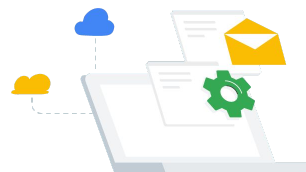


緊急時に向けて備えておきたい 2 つのこと

- ① 個人アカウントとブラウザベースでの端末活用の定着
- ② 外部との柔軟な連携体制を構築

緊急時に考えられるケース ①

端末が壊れたり紛失したりして使えない！



個人アカウントとブラウザベースでの端末活用の定着 をしておくことで..

予備機ですぐに子どもの環境を復元

- Chromebook なら、どの端末からログインしても自分の Google アカウントに紐づいた環境が再現されるので、予備機を貸し出すだけで、子ども自身の学習環境が復元されます。また、Chromebook はメーカー固有の充電器ではなく、全て Type - C ケーブルを採用しているので、充電器が不足していたとしても、緊急時には正規品以外でも使用することができます※1

※1 平常時は正規品の充電ケーブルをご活用ください

ブラウザアプリならすぐに繋がる、いつでも使える

- いつも使用している端末がない状態でも Google アカウントがあれば、家庭用端末から Google Chat や Google Classroom を通して、緊急連絡をすることができます
- データが Classroom や Google ドライブ にあれば、端末の故障や紛失時でもいつでもアクセス可能。授業資料や学びの履歴を失うことなくすぐに学びを再開することができます



環境整備のポイント



1

各学校が予備機を柔軟に貸し出せる状態にしておく

十分な数の予備機を確保し、各学校ですぐに使える状態で管理しておくことをおすすめします。そもそも予備機が購入されていないか、教育委員会に保管されていて学校が使える状態でなかったりすると、いざというときの活用が難しくなります

2

導入・活用するアプリはブラウザベースのものを基本とする

インストール型のアプリだと、端末が使えなくなった瞬間にアプリが使えなくなるだけでなく、今までのデータが失われてしまうリスクがあります。日頃からブラウザベースのアプリを活用し、データやファイルも端末上ではなく、クラウドに蓄積していくことを徹底することが重要です

3

端末を紛失してしまった場合は、端末のデータを遠隔で削除

Chromebook は、Google 管理コンソールから遠隔で端末のユーザーデータやローカルデータを削除し、初期化することが可能です。緊急時に限らず通常時でも、端末を紛失してしまった場合は、個人アカウントから端末を特定し、即座に初期化を行うことで、セキュリティを守ることができます



Google 管理コンソールの
操作方法



[ChromeOS デバイスのデータをワイプする](#)

支援要員や保護者など外部連携が急増する！



外部との柔軟な連携体制を構築 しておくことで..

外部の人ともスムーズな情報連携

- 緊急時は、地域の人との協力や、ボランティアなど地域外の人への受け入れも必要になってきます。連携基盤がバラバラだと、離れた場所にいる関係者同士の即時の連携や情報の集約が難しくなるリスクがあります。Google アカウントを柔軟に発行し、Google Chat や Gmail を共通で使用することで、情報連携をスムーズに行うことができます

保護者も随時情報を受け取れて安心

- 緊急時には、状況が刻一刻と変わるため情報共有の頻度があがります。通常時から、保護者に手間なくすぐに連絡できる環境を整えておくことで、緊急時にも、こまめな情報発信を行うことができ、混乱を避けられます



環境整備のポイント



1

ファイルの外部共有 & Google Classroom の外部ドメインの参加許可

緊急時には、避難児童や支援要員として派遣される先生を受け入れるなど、人の入れ替わりが激しくなります。自治体外からきた人が、自分のアカウントをそのまま使えるようにしておくことも大切です。ファイルの外部共有や Classroom に外部ドメインが参加できるようにする設定は Google 管理コンソール上でできます。また、連携自治体の Google Workspace for Education (以下、Google Workspace) ドメインのみを許可リストに登録し、緊急時に参照し合えるようにすることもできます



Google 管理コンソールの操作方法



[組織の外部共有を管理する](#)



[クラスのメンバー設定を管理する](#)



[信頼しているドメインとのみ外部共有を許可する](#)

2

Google Chat や Gmail などコミュニケーションアプリの使用許可

緊急時は、多様な人との情報連携が必要となってくるため、トラブルを避けるためにも、管理・モニタリングできるコミュニケーションアプリがおすすめです。緊急時は、多様な人との情報連携が必要となってきますが、トラブルを避けるためにもプライベートのチャットツールなどではなく管理・モニタリングできるコミュニケーションアプリがおすすめです。管理者は Google Chat や Gmail のログを Google 管理コンソール上で確認したり、情報ガバナンスと電子情報開示のためのツール Google Vault を使用してやりとりを開示したりできるので安心です



Google 管理コンソールの操作方法



[Chat を組織で利用できるように設定する](#)



[Gmail を使用できるようにする](#)



[Google Vault について](#)

先生ができる日頃からの備え



緊急時に向けて備えておきたい 2つのこと

- ① コミュニケーションツールの日常的な活用
- ② オンライン学習やオンデマンド学習の日常的な活用

緊急時に考えられるケース ①

緊急連絡したいのに電話が繋がらない！！



コミュニケーションツールの日常的な活用 をしておくことで..

安否確認が負担なくすぐできる

- 電話での安否確認は、負担がかかる上に、電話に出られない人の確認が取れないという課題がありましたが、Google Chat や Google フォームを使うことで、一斉に発信ができ、子どもや保護者も自分のタイミングで回答できるので、双方に負担なく完了することができます
詳しくは、
[P.15 : Google Chat で安否確認へ](#)
[P.16 : Google フォームで安否確認へ](#)

離れていてもつながれる安心

- 対面で会えない時はGoogle Chat や Google Classroom を使って、簡単なやり取りをするだけでも子どもたちの安心感につながることが報告されています

詳しくは、[P.3 : 石川県能美市の事例へ](#)



日頃からの備えポイント



1

授業内外で Google Chat を活用

緊急時に即時連絡ができるようになるためには、子どもたちに日常のツールとして根付いていることが重要です。Google Chat の授業や学級での活用を定着していくことはもちろん、委員会やクラブ活動など、子ども同士で Google Chat を活用する事例も増えています。チャットグループには先生が必ず入るなどルールを設けながら、積極的に活用を進めましょう

2

避難訓練でデジタル安否確認の練習

緊急時に備え、デジタルを使った安否確認に慣れておくことが重要なので、避難訓練に、Google Chat や Google フォームを使った安否確認の練習を組み込むことがおすすめです。同時に保護者に向けても練習を行っておくとより安心です

3

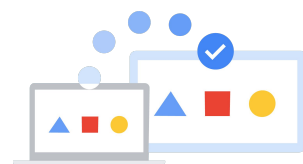
Google Chat や Gmail を使って保護者連絡

緊急時は、子どもだけでなく保護者とのやり取りも増えていくので、普段からコミュニケーションを取れる状態を整えておくことが重要です。保護者にアカウントを付与したり、一般ユーザー向けアカウント (@gmail.com) を各自作成いただいて、Google Chat や Gmail を使った連絡やり取りを普段から実施することがおすすめです



緊急時に考えられるケース ②

学校が通常通り再開できない！



オンライン学習やオンデマンド学習の日常的な活用 をしておくことで..

どこからでもオンライン授業ができる

- 学校が再開できる状況ではなかったとしても、Google Meet を使うことで、どこからでもオンライン授業の実施ができます。授業準備の時間が取れないような状況でも Google Meet で自習室を開いておくだけで、離ればなれになっている子どもたちの交流を促すことができます
詳しくは、[P.23: オンライン授業](#)へ

”授業”ができなくても学び続けられる

- 緊急時には、先生も子どもも様々な状況に置かれるため、オンラインであっても同じ時間に接続することが難しい状況も考えられます。Google Classroom を使って課題配信を行えば、学習ができる状況の子どもの学びを止めないことも可能です。また、共同編集や Classroom 上でやり取りを行えば、協働的に学ぶこともできます。
詳しくは、[P.24: オンデマンド授業](#)へ



日頃からの備えポイント



1

授業資料の配布や課題配信は Google Classroom を徹底活用

学びの入口が多岐に渡ると、どこに資料があるのか混乱してしまうため、複数のアプリを導入していても、課題の配布は Classroom から、と入口を統一することがおすすめです。Classroom は全国的に低学年から活用されています。登校したら、まずは Classroom を見るという習慣があれば、緊急時にも迷いなく課題に取り組むことができます

2

Google Meet を使ったハイブリット授業の実施

普段から Google Meet を活用している事例として、欠席者への授業ライブ配信を行うハイブリット授業があります。Chromebook 1台を教室に準備し、Google Meet に接続しておくだけで、不登校や感染症の自宅待機など様々な要因で教室に来られない子どもが、授業に参加できるようになるため、全国的に実施されています

3

長期休みの登校日を Google Meet を使ってオンラインに

長期休みに登校日を設けている学校もありますが、先生の対応や家庭側もスケジュールを合わせなければならないという負担感から、オンライン授業の形式をとるアイデアが生まれてきています。先生と子どもが別の場所から Google Meet に参加する機会がない学校も多いので、登校日の機会を活用してオンライン授業の形式に慣れておくということもおすすめです



Google マップ

年に1度きりではなく常にアップデート Google マップで学校周辺の危険箇所を可視化・共有



愛知県春日井市

授業のみならず校務でもクラウドの日常的な活用が浸透している春日井市。災害時対策の位置づけではなくとも、通学路の安全点検や、悪天候時の危険情報の共有といったあらゆる場面でその知見が活かされている。

毎年、年度当初に各学校で作成している通学路の安全マップは、これまで子どもたちから収集した情報を、通学路ごとに切り分けた地図に貼って作成していた。現在、ある中学校では、生徒にあらかじめ Google マップ上で自身の通学路を確認するよう指導。その上で安全点検の日に気づいた危険箇所は

Google ストリートビュー への画面キャプチャを撮り、Google フォームに添付して報告させている。(写真上)



取材協力／画像提供 春日井市教育委員会

校区内で冠水などが発生した際には、Google マップ上で危険箇所を選択し、現場写真を添付した上でリンクを取得して行政へ共有。これまでは写真を撮り、FAX やメール添付で行政の担当部署へ送信していたが、情報共有のスピードが圧倒的に速くなった。(写真下)

この他、安全上の異変を感じた際の情報共有は教職員同士のチャットや子どもたちとの Google Classroom 上で日常的に行われている。安全点検はもはや年に一度結果を紙で共有するものではなく、常にアップデートできるものに変化しつつある。

街の消防局と連携 Google サイトで子ども向けに防災対策情報を発信



Google サイト



長崎県佐世保市



取材協力／画像提供 佐世保市教育委員会

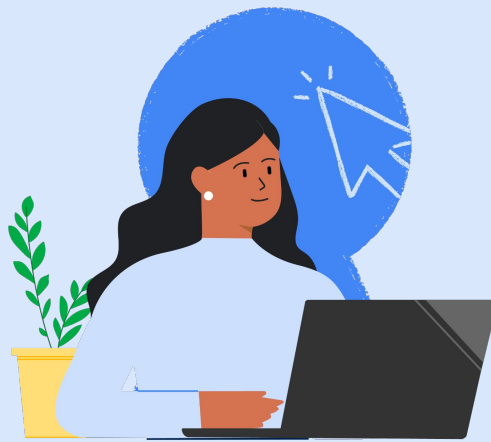
佐世保市では Chromebook の起動時に、市教委が作成した児童生徒用ポータルサイト「Edu ポータル」を起動するように設定しており、子どもたちに、学習で活用できるコンテンツなど様々な情報発信を行っている。

その一環として、消防局や防災危機管理局が作成した火事や防災対策等の YouTube 動画等を集めたサイトを開設。

これまで消防局は子ども向けのコンテンツを多数作成していたものの、発信の場は限られていた。現在は消防局が作成した動画を子どもたちが毎朝見るポータルサイト上で公開することで、多くの子どもたちに情報が発信でき、防災意識の向上につながっている。

第 3 章

緊急時に役立つ Google for Education の活用



本章では、緊急時に役立つ Chromebook や Google Workspace の活用方法を紹介しています。まずは、安否確認を行うことや子どもの心理的安全を確保するための事例、そして、学びの再開に向けた事例を掲載しています。

目次

◆ 安否確認 P. 15
◆ つながる安心 P. 17
◆ 学びの再開 P. 23
Google Meet の基本操作 P. 27
Google Classroom の基本操作 P. 32
◆ 学校運営 P. 37

Google Chat で安否確認



災害発生直後の混乱した状況でも、Chat スペースを使って安否確認をすることで、子どもの状況を把握し、即時的なやり取りやフォローができる

※Google Chat は自治体や管理者の設定により使用できない場合があります。



Google Chat の操作方法



校務での
[Google for Education
の活用](#)

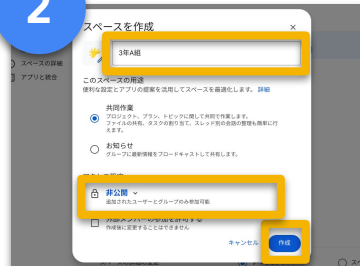
STEP: クラスのスペースを作成し、メッセージを送る

1



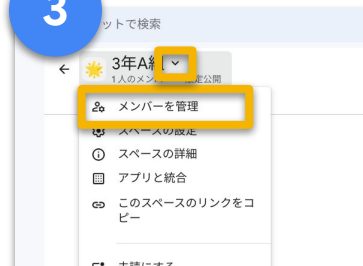
Google Chat の
[チャットを新規作成]から
[スペースを作成]を選択

2



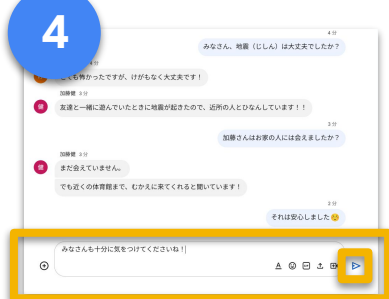
スペース名を入力し、対象
のメンバーだけがアクセスできる
ように「非公開」を選択。
右下の「作成」をクリック

3



スペース名の矢印マークから
「メンバーを管理」を選択し、「追
加」ボタンから対象のメールアド
レスを追加

4

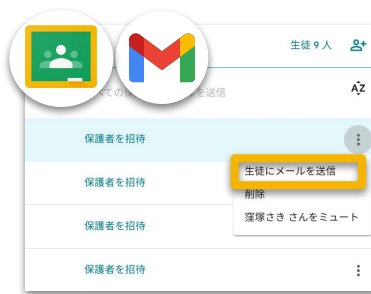


メッセージを入力し、
[Enter キー]、または
[送信] を
クリックして送信

Google Classroom / Gmail を使用する場合



Classroom のストリームから、
「すべての生徒」をクリック
し、連絡したい子どものみを
選択して
コメントを送信



Classroom の「メンバー」から
メールを送信したい子どもの
右横にある
「⋮」を
クリックし、「生徒にメールを送
信」を選択

Google フォームで安否確認



自宅や学校、避難所など子どもの居場所が異なり直接顔を見られない時や、災害発生直後で混乱した状況でも、子どもの安否を確認し、瞬時に回答結果の集計・蓄積・情報共有ができる

緊急時安否確認フォーム

☆あなたの状況を答えられる範囲で学校に連絡してください。

保存が無効になっています

*** 必須の質問です**

学年とクラスを選んでください。*

選択

名前を記入してください。*

回答を入力

あなた自身にけがはありますか？*

☐ ある

☐ ない

けがをしている場合、どのような怪我ですか？

☐ 打撲（だぼく）



すぐに使えるテンプレート



[緊急時安
否確認
フォーム](#)



[健康と心の様子
アンケート](#)



Google フォーム操作方法

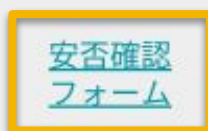


[校務での
Google for Education
の活用](#)

STEP: フォームを作成し、リンクを取得する

1

テンプレート



安否確認フォーム
のリンクをクリック

2

Google ドライブ

ドキュメントのコピー

「緊急時安否確認フォーム」のコピーを作成しますか？

[コピーを作成](#)

[コピーを作成] をクリック

3

質問 回答 設定

の日の健康状態を報告するために、毎朝学校で入力するフォームです。

番号 (4ケタのID) を入力して

配布式

本文範囲

次の順にある

1000 と 6999

4ケタの半角英数字を入力してください

必須

質問の追加は[+] ボタン、
削除は[ゴミ箱] ボタンを
クリック

4

質問 回答 設定

回答を収集、保護する方法を管理できます

メールアドレスを収集する

収集しない

回答のコピーを回答者に送信

[メールアドレスを収集する] をオンにする必要があります

回答の編集を許可する

提出後に編集を許可することを許可します

と信頼できる組織のユーザーに限定する

[設定] ページから、
組織のユーザーに限定する
をオフに設定する

取得したリンクの配信方法

送信

緊急時安否確認
フォームを送信

メールアドレスを収集する

収集しない

リンク

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScDhYFEMREYUjaoC0vH77V9L1T9

リンクをコピー

フォーム編集ページから
[送信] → [🔗] をクリック、
リンクをコピーで取得したリンク
をサイトに掲載、メールで送信

このページの QR コードを作成

Englishに翻訳

リーディング モードで開く

ページのソースを表示

検証

フォームのプレビュー画面
上で右クリックし、[このページ
のQRコードを
作成]を選択

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

Google Classroom を使った交流



災害発生直後の混乱した状況でも、コメント投稿・返信機能によって子どもと先生が交流し、互いに励まし合うことで心のケアをはかることができる



先生向け Classroom スタートガイド



テキスト版



動画版

STEP 1: ストリームに投稿する

1



[クラスへの連絡事項を入力]
をクリック

2



文字を入力後、[投稿]を
クリック



画像・動画の投稿

[P.33: Google Classroom の
基本操作 一お知らせ投稿一](#)



STEP 2: ストリームの投稿に返信し合う

1



返信したいコメントの
右にある返信マーク
[↩]をクリック

2



メッセージを入力し、[Enter
キー]、または [▶]
をクリックして送信する



権限設定



[Google ヘルプ 生徒に投稿と
共有の権限を設定する](#)

Google Chat を使った子ども同士の交流

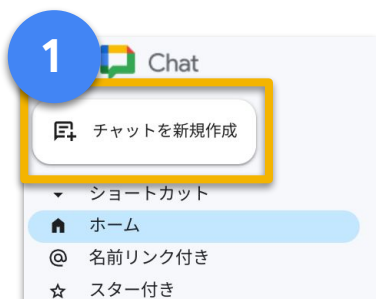


クラスの Chat スペース上で、その日のお題を決めてメッセージや画像を送り合うことで子ども同士が気軽に交流できる。投稿ルールを決めることで安心して運用できる

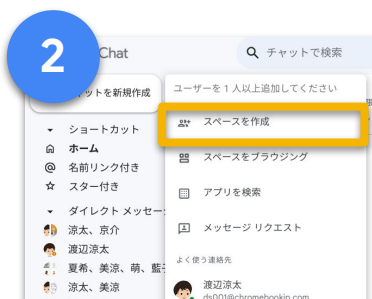
※Google Chat は自治体や管理者の設定により使用できない場合があります。



STEP 1: スペースを作成し、メッセージを送る



Google Chat の[チャットを新規作成]をクリック



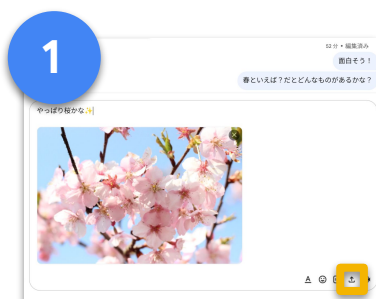
[スペースを作成]をクリック。

※スペースの作成方法は、[P.15: Google Chat で安否確認の基本操作へ](#)



メッセージを入力し、[Enter キー]、または [▶] をクリックして送信

STEP 2: 画像やリアクションを送る



右下の [📎] をクリックして
ファイルから画像を選択し、アップロード



メッセージにカーソルを
合わせ、リアクション
ボタン[😊] から顔文字や絵
文字を選択

ヒント!

Google Chat を使う際は、会話の場所に必ず先生を追加する、思いやりのある言葉遣いをする、使う時間を決めるなど、正しく使うためのルールを学校で決めるのがおすすめです。

組織の管理者はチャットのログを確認することができるので安心です


日々の生活を記録した交換絵日記



先生と子どもだけでなく子ども同士も互いの状況がわかる。日記形式にすることで日々の状況が伝わりやすく、コメント機能を使うことで子ども同士の交流を促すことができる

1月3日 (2)組 (3)番 名前()

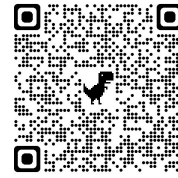
あけまして おめでとうございます。
 ことしも よろしく おねがいいたします。
 すずへ きゆうに行くことになって、1/1大
 地しんにあいました。でも、ぶじに帰っ
 てくることが、できました。
 1/9に学校で、会いましょう。



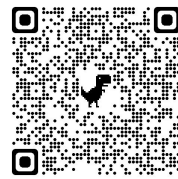
すずの、大地しん後の
 しゃしんです。

画像提供 能美市教育委員会

すぐに使える
テンプレート



デジタル絵
日記



デジタル
学級日誌

STEP 1: テンプレートをコピーする

1

すぐに使えるテンプレート

デジタル絵日記
デジタル学習日誌

テンプレートのリンク
をクリック

2

Google Slides

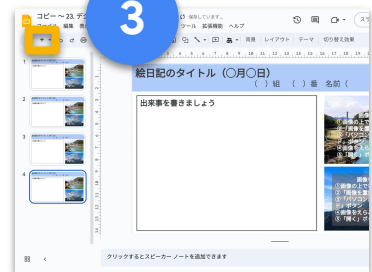
ドキュメントのコピー

「23. デジタル絵日記を書こう」のコピーを作成しますか？

コピーを作成

[コピーを作成] をクリック

3



必要に応じて内容を編集する。
Google スライドの枚数を
増やすには、[+] をクリック

STEP 2: クラスへ配信する

1



クラスの授業ページから
[+作成] → [課題] をクリック

2



[タイトル] の入力後、
Google ドライブから該当の
ファイルを挿入し、
[割り当て] をクリック



ヒント！

子ども同士も互いに参照できるようにするには
[生徒がファイルを編集できる] 配布方法がおすすめです

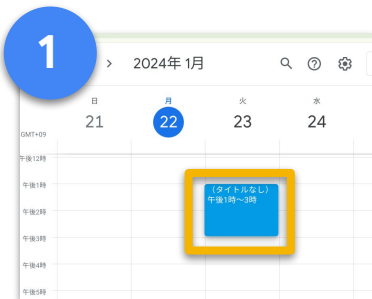
詳しくは、[P.34: Google Classroom の基本操作—課題投稿—](#)へ

カウンセラーや先生とのオンライン面談予約

Google カレンダーと Google Meet を組み合わせることで、オンライン上で予約から面談実施までを調整できる。スケジュール調整などの煩雑な作業がなく、現地にカウンセラーがいない場合でも遠隔のカウンセラーと話すことができる



STEP 1: カレンダーで予約枠を作成する



Google カレンダーで面談枠作りたい部分を選択



予定名を記入し、「予約スケジュール」設定の順にクリック



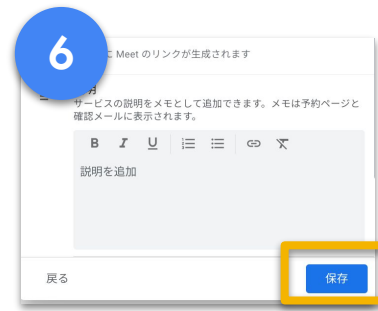
1つの面談枠の長さを設定



①の面談枠の他に追加したい枠があれば「+」で追加し、「次へ」をクリック

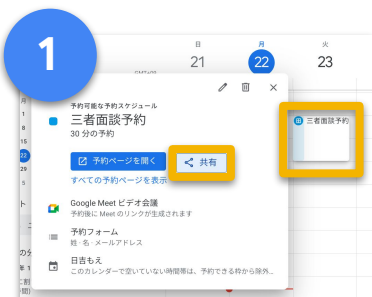


オンライン面談の場合、「会議の方法と場所を選択」、[Google Meet ビデオ会議] をクリック



[保存] をクリック

STEP 2: 予約ページのリンクを共有する



作成した予定をクリックし「共有」を選択



[リンクをコピー]してコピーしたリンクを共有

ヒント！

コピーしたリンクをメールや Google Classroom で配信したり、QR コードにして配布したりすることで、希望者が簡単にスケジュールの予約を入れることができます



Google Meet の操作方法は、[P.27: Google Meet の基本操作](#) へ

学校の情報を Web サイトで発信



避難所での子どもの生活を離れて暮らす保護者に配信することができる。
保護者会や新入生説明会が開催できない状況下でも、学校からのお知らせを発信できる



Google サイト操作方法

[Google サイトによる情報の一元化](#)

ヒント！

子どもの生活の様子を配信
学校や避難所での子どもの様子を写真で共有可能

お知らせや、新入生向けの事務連絡を配信
必要な資料やファイルも掲載可能です。また、YouTube 動画をアップロードすることも可能

STEP 1 : Google サイトを作成する



Google サイトを開き、[空白のサイト]をクリック



ページタイトルとファイル名(左上)を入力。右側の項目から、テキストボックスや画像など必要な要素を追加

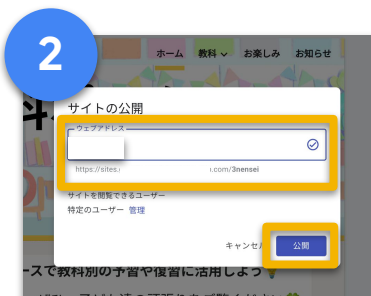


ページを増やすときは、[ページ]、[+]、[新しいページ]の順にクリック

STEP 2 : Google サイトを公開する



サイトの内容が完成したら、[公開]をクリック



任意のウェブアドレスを入力後、[公開]をクリックする。公開されたページは上部の[リンクをコピー]から取得可能

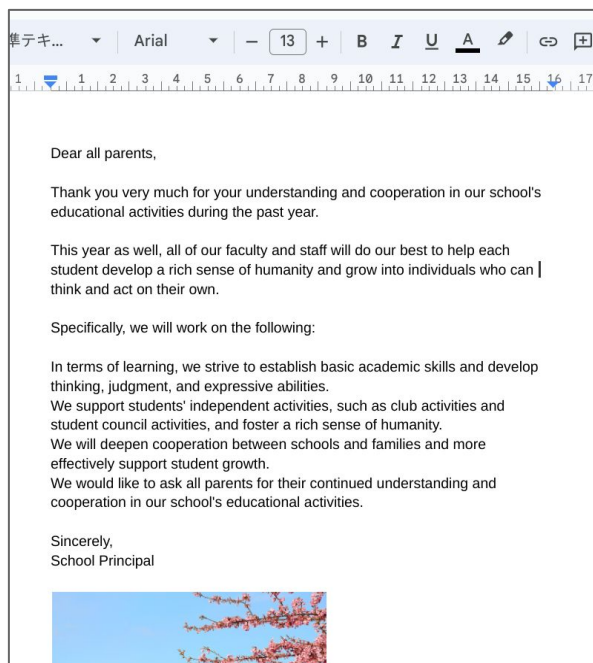


サイト公開後も、いつでも編集可能。直接編集後、[公開]の右横▼をクリックし、[公開前に変更を確認]から更新部分を確認し、[公開]

翻訳や音声入力を使った外国語での資料作成

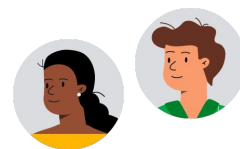


通訳や翻訳をすぐに依頼できない状況でも、外国語でのコミュニケーションができる。外国語での情報入手がしにくい被災地でも、外国語を話す方への安心につながる



ヒント！

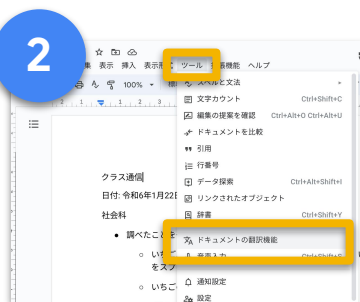
英語に限らず、フィリピン語(タガログ語)やウクライナ語等、数多くの言語に対応しています



PATTERN 1: Google ドキュメントの翻訳ツールを使う



Google ドキュメントを開き、[空白のドキュメント] をクリック。文書を作成



文書が完成後、[ツール]、[ドキュメントの翻訳機能] の順にクリック



[言語を選択] から言語を選択すると、ドキュメント全体が翻訳された新しいファイルが作成される

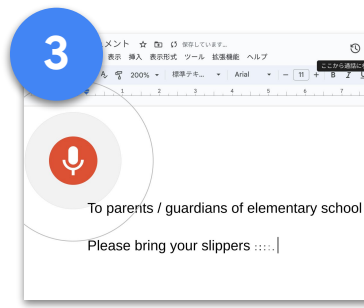
PATTERN 2: Google ドキュメントに外国語で音声入力する



Google ドキュメントを開き、[空白のドキュメント] をクリック



[ツール]、[音声入力] の順にクリック。[日本語▼] をクリックし、入力したい言語を選択



マイクのボタンをクリックすると、話した内容がテキストとしてドキュメント上に出力される

※ 初めて音声入力を使うときには、画面に表示されるメッセージからマイクを許可する必要があります

オンライン授業



学校が再開できていない、一部の子どもが登校できないといった場合でも、Google Meet でリアルタイム配信を行うことで先生と子ども、子ども同士が交流しながら学ぶことができる



Google Meet の基本的な操作方法

[P.27: 先生向け説明資料](#)

[P.31: 子ども向け説明資料](#)

ヒント！

避難所や仮設住宅内ではGoogle Meet のバーチャル背景機能を使用することでプライバシーの保護に役立ちます

学校が再開できていない場合 完全オンライン型



1. 端末（Chromebook）を用意する
2. Google Classroom から Google Meet に参加する

※ Google Meet の基本操作は[P.27: 先生向け説明資料](#)のページをご覧ください

学校再開後、一部の子どもが登校できない場合 ハイブリッド型



1. 電子黒板などと端末（Chromebook）をケーブルで接続する
2. 電子黒板などに教材を提示する
3. 端末（Chromebook）に Google Meet の画面を映す
4. オンライン参加者向けにGoogle Meet から電子黒板の画面を全画面共有する

※ 画面共有の詳細は[P.29: 先生向け説明資料](#)のページをご覧ください

ヒント！

大型モニターがない場合は、教室にいる子どもにもGoogle Meet に参加してもらうことで教材や資料を手元の端末で見ってもらうことができます

オンデマンド授業



学校が再開できていない、または再開できていても十分な教育活動が行えない場合でも、Google Classroom を使ったオンデマンド授業を行うことで、時間や場所を選ばずに学ぶことができる



Classroom の基本的な操作方法

[P.32 : 先生向け説明資料](#)



すぐに使えるテンプレート



はじめよう！
これからの家庭学習
Google for Education を
活用した事例ブック



無償コンテンツ



令和6年能登半島地震
学習支援コンテンツ

出典：文部科学省ホームページ
(<https://www.mext.go.jp/>)

動画で学ぶ

イメージ



1. YouTube やその他の学習教材を探す。
授業動画を自身で撮影する場合は動画を
Google ドライブへ保存しておく
2. Google Classroom から動画のリンクを配信する

ヒント！

先生もChromebook を持っている場合は、スクリーンキャプチャを活用することで簡単に授業動画が撮影・配信できます。日本語の理解が難しい子どもに向けて翻訳もできます
※ 参考事例は[P.25 : オンデマンド授業の動画を作成](#)のページをご覧ください

ワークシートで学ぶ

イメージ



1. Google ドライブからワークシートを作成したり
ページ右上の「はじめよう！これからの家庭学習Google
for Education を活用した事例ブック」の冊子
からワークシートをコピーしたりする
2. Google Classroom の [授業] からワークシートを
配信する

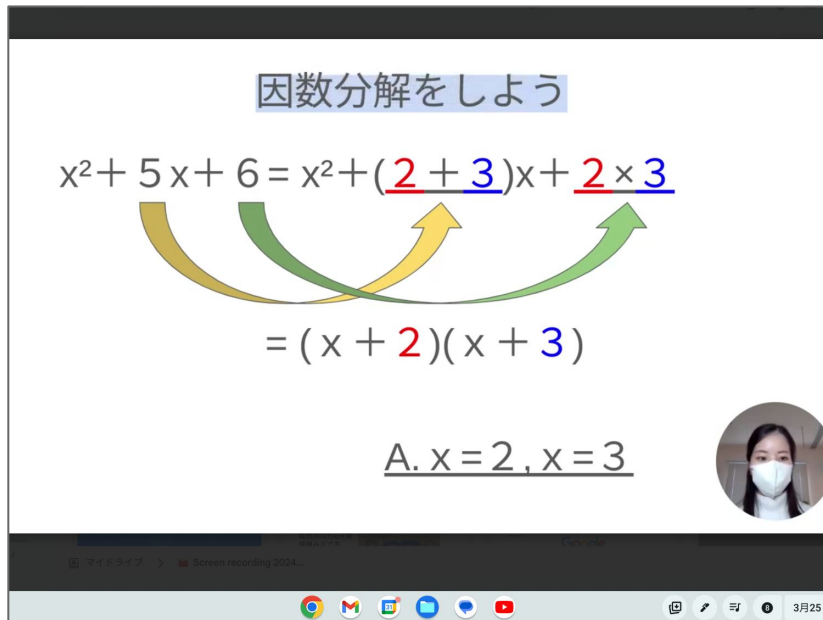
ヒント！

Google スライドやGoogle ドキュメントのコメント機能を活用することで、離れていても子ども同士で協働をすることができます

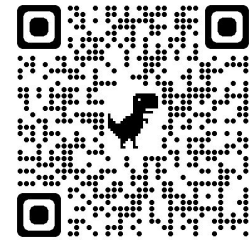
オンデマンド授業の動画を作成



オンデマンド授業用の動画をスクリーンキャプチャで作成し共有することで、学校が再開していない場合でも、子どもが時間や場所を選ばずに学ぶことができ、学びを継続、保障することができる



スクリーンキャプチャの使用方法



画面のスクリーンショットを撮影または録画する

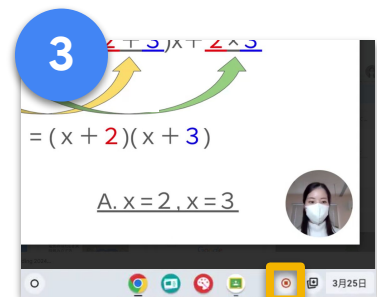
STEP 1: 画面を録画する



画面右下の時刻表示から [スクリーンキャプチャ] をクリック



から音声入力の [マイク] を ON にし、[カメラ] の ON / OFF を選択



任意の場所をクリックし、撮影を開始。録画を止めるには、画面右下の赤い停止ボタンをクリック

STEP 2: 録画したものを共有する



録画したものは [マイファイル] の [ダウンロード] フォルダまたは指定したフォルダへ保存される



指定したフォルダから共有する場合は、指定のファイル [:] から共有、リンクをコピー



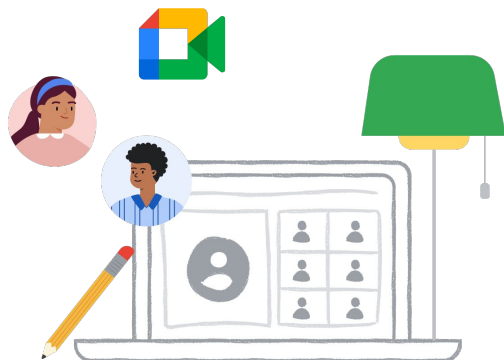
Classroom などを通して、ダウンロードしたものをアップロード、またはリンクを添付して共有

オンライン自習室



Google Meet

リアルタイムの授業が十分に行えない場合でも、Google Meet を使ってオンライン自習室を開くことで、直接会えない子ども同士の交流をはかることができる



Google Meet の基本的な操作方法

[P.27 : 先生向け説明資料](#)

[P.31 : 子ども向け説明資料](#)



参考事例の冊子 (P.56)



[はじめよう！
これからの家庭学習
Google for Education を
活用した事例ブック](#)

ヒント！

朝の会、終わりの会、ランチタイムの時間帯にGoogle Meet をつなぐことで、学習ではなく、子ども同士の交流を目的とした会にすることもできます



STEP 1: 自習室運営のルールを決める

1



学校内で、どの時間帯に誰を対象に実施するのかを決める

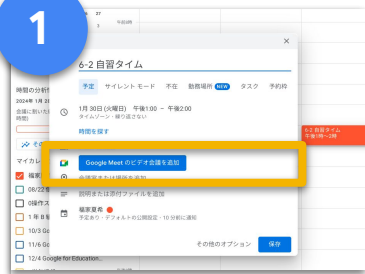
2



最初と最後の10分間はおしゃべり、学習時間は私語厳禁など、最低限のルールを決める

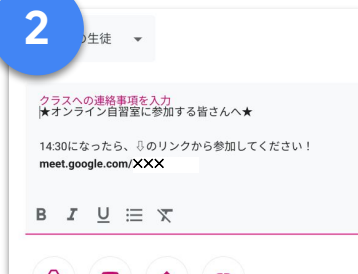
STEP 2: 自習室用の Google Meet リンクを作成・配信する

1



Google カレンダー上で予定を作成しGoogle Meet のビデオ通話のリンクを追加

2



リンクをGoogle Classroom に配信

3



Classroom の Google Meet のリンクを使用することもできます。[P.27 : 先生向け説明資料](#)のページをご覧ください

Google Meet の基本操作 —授業の開始—

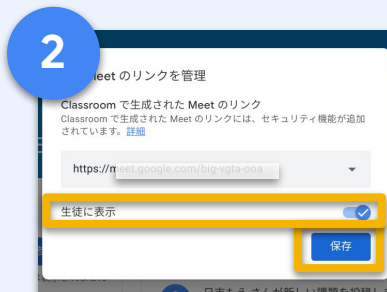


Google Meet

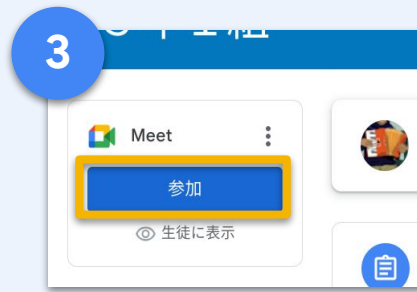
STEP 1: Google Meet に参加する



Google Classroom のクラスの
[ストリーム] から
[リンクを生成] をクリック



[生徒に表示] を ON で
[保存] をクリック



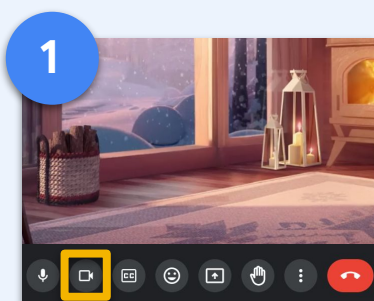
[参加] をクリックし
[今すぐ参加] をクリック



ヒント！

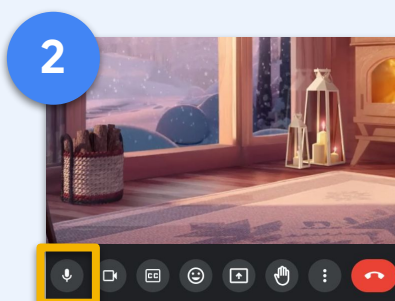
Google Classroom から始める Google Meet のビデオ通話は、先生が入室するまで子どもは待機する(通話が開始されない)仕様になっています

STEP 2: カメラ・マイクの ON / OFF を設定する

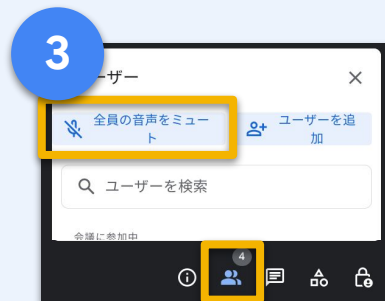
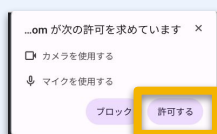


カメラの ON / OFF

※初めて Google Meet を使うときは、
画面上のメッセージからマイク・カメラ
を許可する必要があります



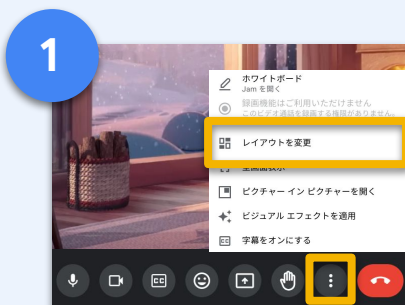
マイクの ON / OFF



ヒント！

騒がしくなった場合は、右
下の人型アイコンから
[全員の音声をミュート] の設定が
できます

STEP 3: 全員の顔を表示させる (レイアウトの変更で最大 49 人を表示)



[:] から [レイアウトを変更] をク
リック



最下部の [タイル] の
スライダーを一番右に設定

すぐにできる
オンライン授業

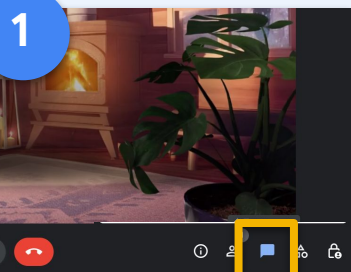
「まずつながろう」という段
階ではこの 3 ステップを行
い、背景に黒板や説明を映
すだけでもオンライン授業
を行うことができます



Google Meet の基本操作 —参加者の交流—



STEP 1: チャットでメッセージを送る



画面右下の吹き出しのアイコンをクリック



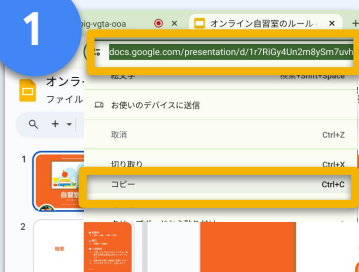
チャットボックスに文字を入力し [Enter] キーを押す



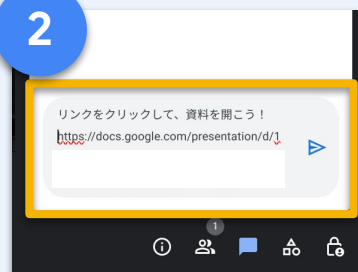
ヒント！

チャットは、音声が届いているかの確認や、簡単な挨拶や資料リンクの共有に使えます

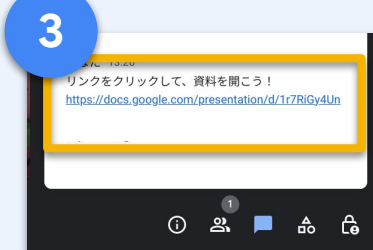
STEP 2: チャットでリンクを送る



見てほしいサイトやページのリンクをあらかじめコピーする

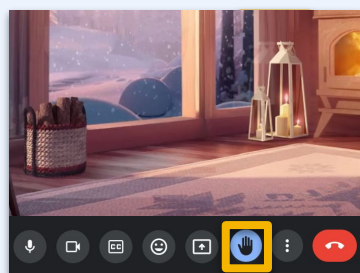


チャットボックスに貼り付けて送信



参加者はリンクをクリックすると Google Meet に参加しながら資料が開ける

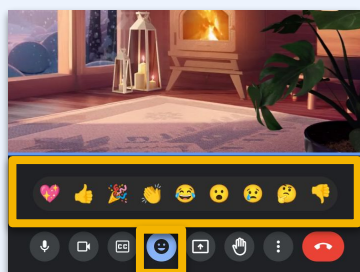
STEP 3: 挙手ボタンやリアクションで意思表示



挙手ボタンを選択



先生は誰が挙手しているか画面上で確認できる

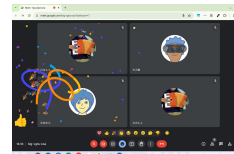


[リアクションを送信] から、好きな絵文字を送信できる



子どもたちの状態を確認

授業開始時にリアクションで今日の気分を選んでもらうことで、子どもたちの気持ちや状態を確認することができます

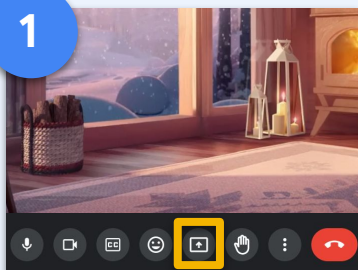


Google Meet の基本操作 一画面共有



STEP 1: 画面共有をする

1



[画面を共有] をクリック

2



どの画面の範囲を共有したいかを選択
[Chrome タブ] - 選択したタブのみ共有
[ウィンドウ] - 選択したウィンドウのみ共有
[画面全体] - 自分が見ている画面を共有

ヒント!

[画面全体] の共有方法では自分の画面がそのまま相手に提示されます。簡単な一方、見せたくない部分が提示されないように注意しましょう



STEP 2: 画面共有で動画を流す

1



[画面を共有] のあと
[Chrome タブ] をクリック

2



音声や動画を含むページを
選択

3



[タブの音声も共有する] を ON に
して [共有] をクリック

ヒント!

音声や動画を流したいときは、[Chrome タブ] を選択しましょう
音声反響してしまう場合は、[P.30: Google Meet の基本操作 -トラブル解決-](#)のページをご覧ください



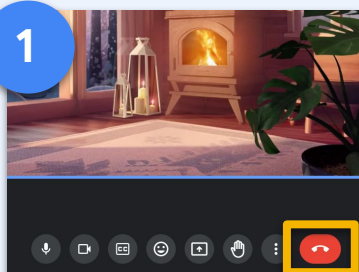
Google Meet の
基本操作



[ビデオ会議中に
プレゼンテーションを
行う](#)

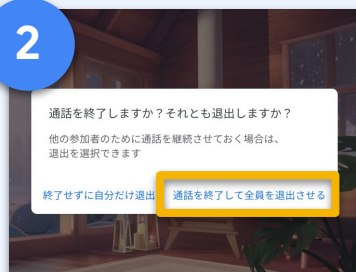
STEP 3: 終了するには

1



[通話から退出] をクリック

2



[通話を終了して全員を退出さ
せる] をクリック

ヒント!

子どもだけでビデオ通話に残らないようにするには、[通話を終了して全員を退出させる] を選択すると安心です

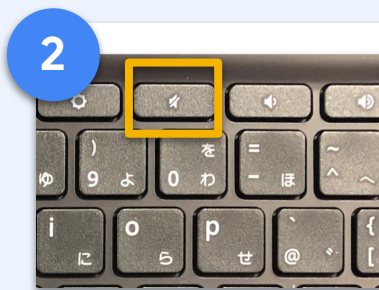
Google Meet の基本操作 トラブル解決一



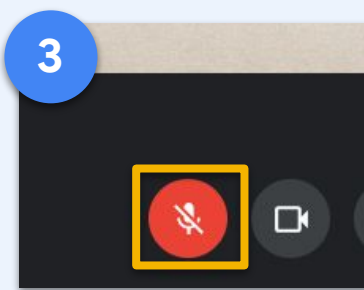
ハウリング(音が反響)したときは？



1 近くで Google Meet に接続している端末がないか確認する



2 近くの端末の音声を切る
※キーボードの
スピーカーオフボタン



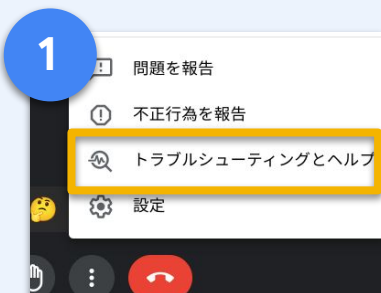
3 音声再生中にハウリングしたら
音声を流している間は自分の
マイクを OFF に設定



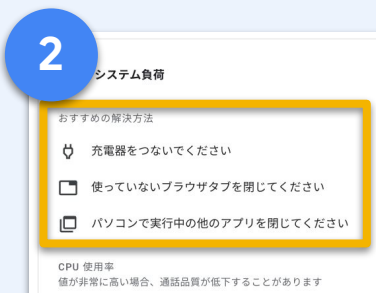
ヒント！

複数人同時に近い場所で Google Meet に参加しなければいけない場合、それぞれがイヤフォンで音声を聞き、発言時は発言する人のみマイクを ON にして発言するとハウリング対策になります

インターネット接続のトラブルが起きたら？



1 [:] より[トラブルシューティングとヘルプ]を開く



2 [おすすめの解決方法]を確認し試す



ヒント！

不要なタブを閉じたり、参加者がカメラを OFF にしたりすることでネットワークの負荷を下げるすることができます

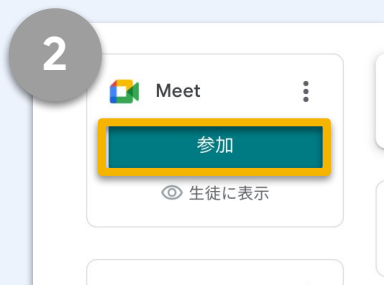
Google Meet のき本そう作 ー子ども向けし料ー



STEP 1: Google Meet に参加する



Google Classroom の
[ストリーム] を開く



画面左側の[参加]を
クリック



[今すぐ参加] をクリック



ヒント！

先生が Google Meet に入る
までは開始しません
先生が参加するまで待ちま
しょう

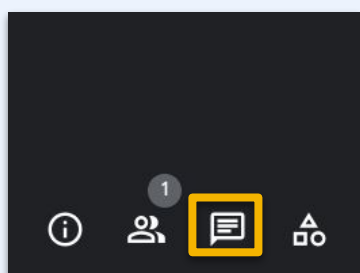


Google Meet の き本そう作

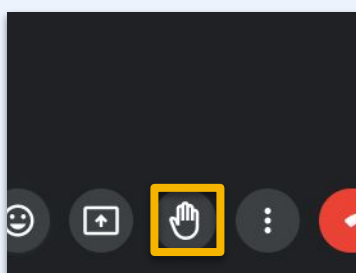


[Google Meet に
参加する](#)

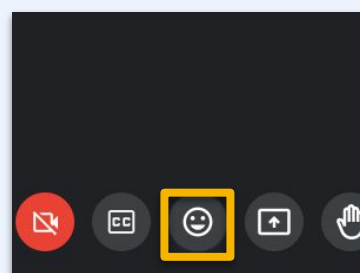
STEP 2: Google Meet に参加しながらコミュニケーションをとる



チャット
文字のやりとりができる



挙手(きょしゅ)
意思表示ができる



リアクション
絵文字で反のうできる

こんなときどうする？

音が聞こえない



画面右下の時計の部分
をクリックし音声せつ定を
かくにんしましょう

音が響く(ハウリングする)



近くで他の人も Google Meet に
参加している場合、代表者以外
はたん末の音声を OFF にする
か、イヤフォンを使いましょう

画面が固まった

ティングから退出し

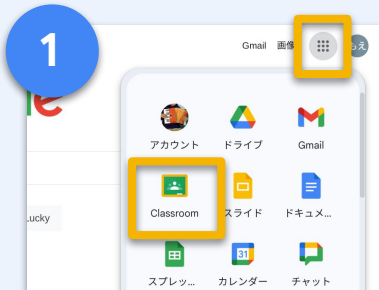


自分のカメラを OFF にする
か、一度たい出して[再参加]
してみましょう

Google Classroom の基本操作 ―クラス作成―



STEP 1: クラスを作成する



Google Classroom を開く



[+] から[クラスを作成]
を選択



クラス名を入れ[作成] を
クリック

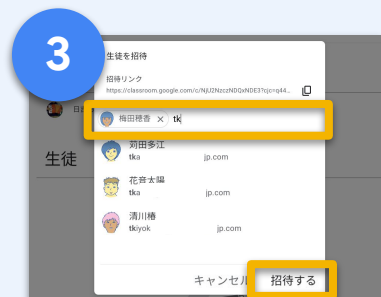
STEP 2: 子どもを招待する



[メンバー] をクリック

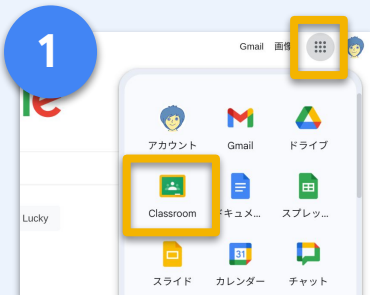


[生徒を招待] をクリック



子どものアドレスを入力し
[招待する] をクリック

STEP 3: 子どもがクラスに参加する



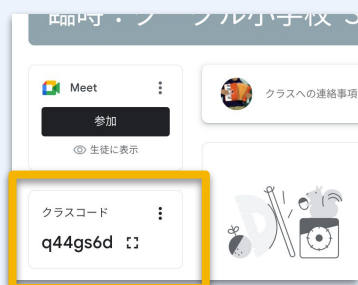
Google Classroom を開く



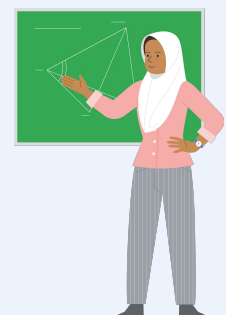
クラスカード上の[参加]
をクリック



[Classroom への参加方法](#)



画面左側の[クラスコード]
を表示

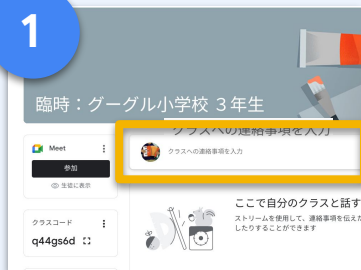


Google Classroom の基本操作 —お知らせ投稿—



STEP 1: お知らせを投稿する

1



[クラスへの連絡事項を入力]
をクリック

2



[すべての生徒]を選択し、
文字を入力後
[投稿]をクリック

ヒント！

先生が毎日お題を決めたり、
日々の健康状態についてクラス
のみんなで「おしゃべり感覚」で
やりとりすることで状態確認が
でき安心感につながります

STEP 2: カメラで撮影した画像を投稿する

1



[ファイルをアップロード]
をクリック

2



[アップロード]から[参照]
をクリック

3



[カメラ]から画像を選択し
[開く]をクリックし画像を
投稿

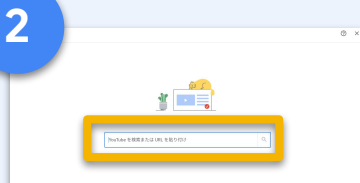
STEP 3: ストリームに動画を投稿する

1



[YouTube 動画を追加]をク
リック

2



YouTube を検索または
URL を貼り付け

3



投稿したい動画を選択し
[動画を追加]をクリック



同様に Google ドライブ上の
資料も投稿できます



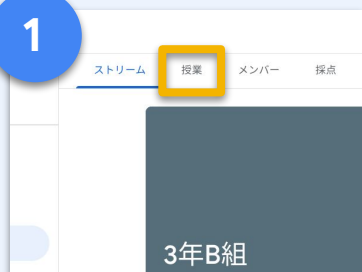
出欠状況にばらつきが
ある時のフォローに

授業の板書を写真に撮って投
稿したり、参考動画を投稿す
ることで欠席した子どものフォ
ローアップになります

Google Classroom の基本操作 —課題投稿—



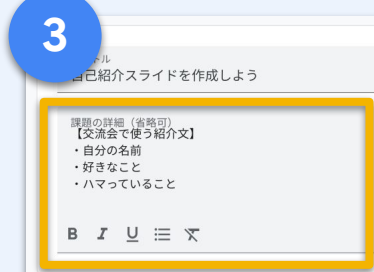
STEP 1: 課題を作成する



[授業] のタブを開く

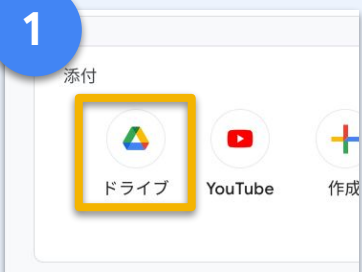


[+作成] から[課題] をクリック



タイトルや必要に応じて
課題の詳細(お知らせ事項)を記入

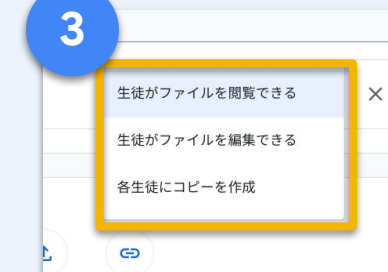
STEP 2: ファイルを添付し共有方法を決める



[添付] から Google ドライブ
を選択



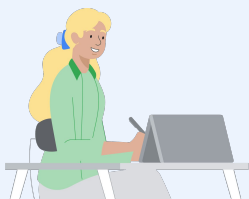
ワークシートとして配信したい
ファイルを選択し
[追加] をクリック



ファイルの右側のタブから、
共有方法を選択

ヒント!

共有方法は3種類
あります



生徒がファイル閲覧できる

子ども全員に対し、閲覧権限で1つの資料を共有する

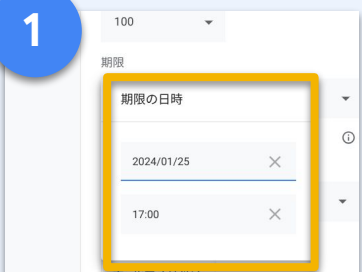
生徒がファイルを編集できる

子ども全員に対し、編集権限で1つの資料を共有する
※ 同時編集可能なグループワークの形式

各生徒にコピーを作成

子ども1人1人に対し、資料がコピーされて配布される
※ 従来の印刷して紙を配っていたようなイメージ

STEP 3: 課題を投稿する



必要に応じて提出期限など
詳細設定を行う



[割り当て] をクリックし
配信

ヒント!

課題はすぐに配信せずに、
下書きへの保存や、事前に設定した
時間に予約投稿ができます



Classroom の
操作方法

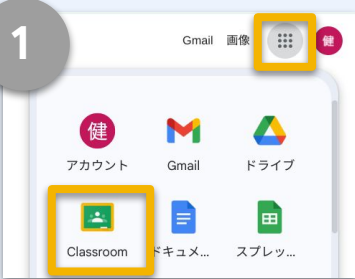


[Classroom で課題を
作成する](#)

Google Classroom の 基本操作 ー子ども向けし料ー



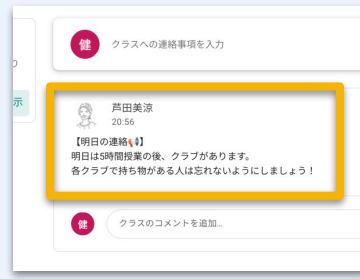
STEP 1: Classroom のクラスに参加してお知らせをかくにんする



Google Classroom に
アクセス



クラスカード上の[参加]
をクリック



クラスに参加してすぐに開く画
面(ストリーム)でお知らせを
かくにんできます

STEP 2: 課題をかくにんする



[授業] のタブをクリック



投こうされている
課題のタイトルをクリック



課題のしょう細をかくにんしたり、課題にアクセスできます

こんなときどうする？

クラスみんなに連らくする



[クラスのコメントを追加]
に文字を入力して投こうする

先生にこ別に連らくする



課題のしょう細を開き[限定公開
のコメント]をクリックしてコメント
を送る

クラスコードでクラスに 参加する



Google Classroom のトップ
ページの[+] から[クラスに参
加]をクリックし、先生が示したク
ラスコードを入力して参加する

ヒント!

基本的な使い方が知りたいときは
「はじめよう！私たちのこれからの学び」
をチェックしてみましょう



参考事例の冊子 (P. 9)



[児童生徒向け: はじめよう！私たちのこれからの学び](#)



参考動画集のご紹介

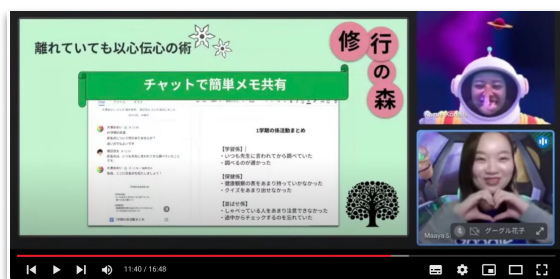
このサポートブック内にある一部の動画は、下記のフォームへご回答いただくことでご覧いただけます。

「Google for Education オンライン放課後セミナー」動画集には、本サポートブック内で取り上げている活用例のみならず Google for Education の各アプリの使い方や活用アイデアについて先生向け・児童生徒向けにご紹介している動画が 50 本以上おさめられています。

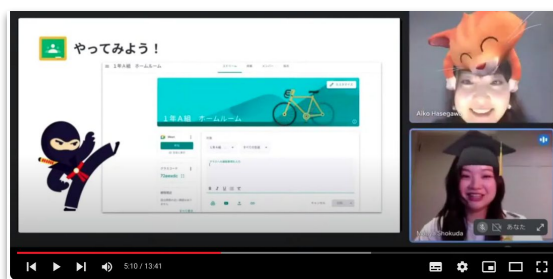
サポートブックの補助コンテンツとして、またクラウド日常づかいのヒントとしてぜひご活用ください。

【動画の一例】

※動画撮影時点の UI(ユーザーインターフェイス)が現在のものと異なる場合がございます



Google for Education
オンライン放課後セミナー(児童生徒向け)
Google Chat の巻



Google for Education
オンライン放課後セミナー(児童生徒向け)
Google Classroom の巻



▲Google for Education
オンライン放課後セミナー
動画集お申し込みフォーム



Google for Education オンライン放課後 セミナー 動画集お申し込みフォーム

災害時の学びを止めないサポートブックへGoogle for Educationで今すぐできることへを御覧いただきありがとうございます。本サポートブック内で掲載している一部の参考動画については以下のフォームにご回答後に動画集のリンクを差し上げております。誠にお手数をおかけいたしますが、ご理解賜りますようお願いいたします。

※尚、本動画集は教育委員会、教員などの学校関係者向けに提供するもので、企業向けではありません。

* 必須の質問です

メール *

☐ 返信に表示するメールアドレスとして を記録する

お名前をご記入ください *

回答を入力

ご所属の学校名(教育委員会所属の場合は市町村名)をご記入ください *

回答を入力

・ご回答いただきました個人情報につきましては、動画集リンクのご提供以外の目的で使用するものではありません
・本動画集は教育委員会、教員などの学校関係者向けに提供するもので、企業向けではありません

☐ 確認しました

※動画は遷移先のフォームに回答することでご覧いただけます

備品の管理や落とし物状況の最新情報を確認



Google
スプレッドシート

備品や落とし物の管理表を Google スプレッドシートで共有することで、貸出状況や最新情報をリアルタイムで確認することができる。人手の限られた状況の中、問い合わせが殺到することを避けられる

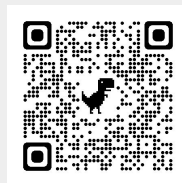
備品管理表					
ファイル 編集 表示 挿入 表示形式 データ ツール 拡張機能					
75% 123 デフォ...					
M5					
	A	B	C	D	E
1		管理番号	備品の名前	備品の写真	保管場所
2		例	HDMIケーブル		借りる人の名前
3		1	充電ケーブル		コンピュータ室 相馬
4		2	ポケットWi-Fi		職員室 吉田
5		3	プロジェクター		図書室倉庫 桜井
6		4	台車		体育館倉庫 木村
7		5			
8		6			
9					



Google スプレッドシートで備品管理



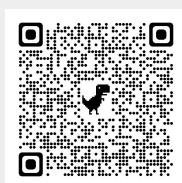
テンプレート



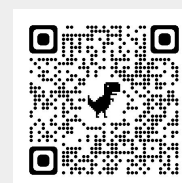
参考動画



Googleスプレッドシートで落とし物管理



テンプレート



参考動画

STEP 1: Google スプレッドシートを作成する

1



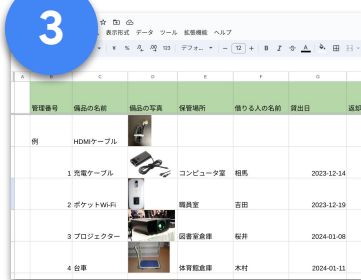
テンプレートのリンクをクリック

2



[コピーを作成]をクリック

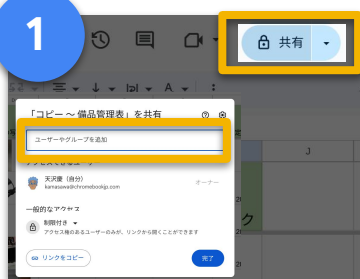
3



必要な項目を適宜追加

STEP 2: Google スプレッドシートを共有する

1



右上[共有]をクリック
シートを共有したい人の
メールアドレスを入力

2



管理表を編集する人は
「編集者」
管理表を閲覧する人は
「閲覧者」にして [送信]

3

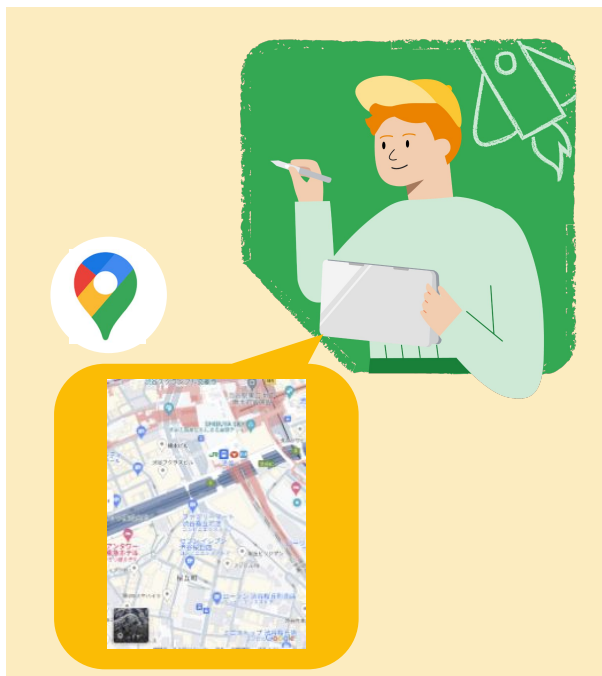


不特定多数の閲覧者がいる場合
には、[リンクを知っている全員]
に変更すると簡単に情報を共有可能

通学路や近隣地域のハザードマップを作成



通学路や近隣地域の危険箇所や災害時に避難所になる場所を Google マップでリスト化することで、保護者と子どもに安全な通学路を共有することができる



参考事例の冊子 (P. 22)



[Google マップのリストをつかった参考事例](#)



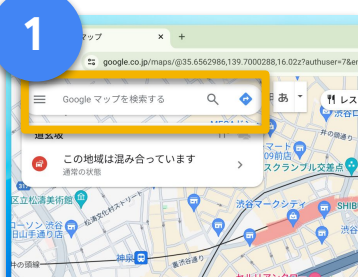
[Google マップのオフラインでの使用方法](#)

インターネット接続が遅い、不安定といった状況に備え、スマートフォンやタブレットにGoogle マップから特定のエリアを保存しておくことで、オフラインで使用することができます



STEP 1: Google マップでリストを作成する

1



Google マップで、リストに追加したい場所を検索

2



[保存]、[新しいリスト]の順にクリックし、
リストの名前をつけ
[作成]をクリック

3



リストに追加したい場所を検索し、[保存]の操作を繰り返す

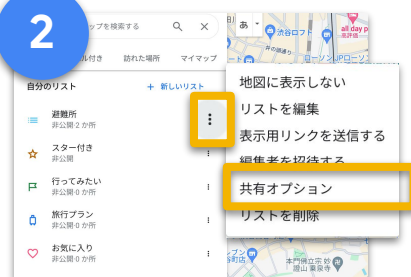
STEP 2: Google マップのリストを共有する

1



Google マップの左上の
3本線、次に[保存済み]を
クリック

2



作成したリストの右側の
[:]、[共有オプション]、
[共有中]の順にクリック

3

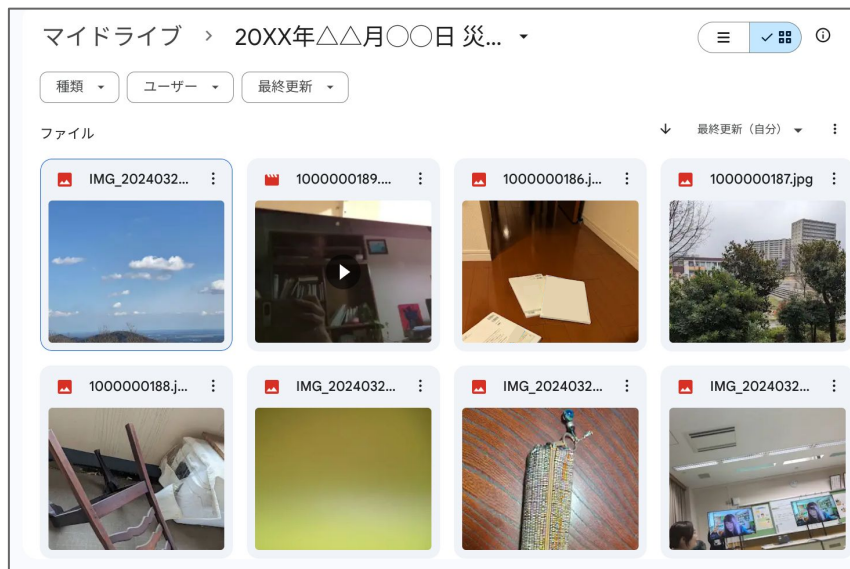


[表示用リンクを送信する]、
[共有可能なリンクを取得]で
取得したリンクをリスト
共有者に送信

災害時対応の記録をクラウドで保存



災害発生時の状況をその場で迅速に記録するためにも、関係者間で保存しやすい環境を整備しておくことが重要。災害発生後、将来の災害対策に活かすこともできる



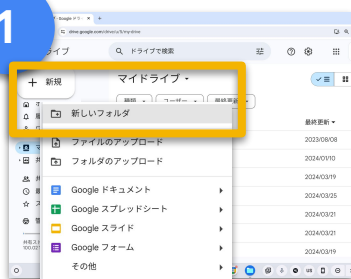
気づき共有
シート



20XX年△△月〇〇日
災害時記録 テンプレート

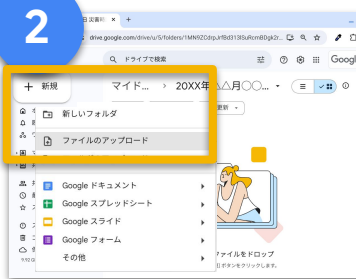
STEP 1: 写真・動画は Google ドライブ に保存する

1



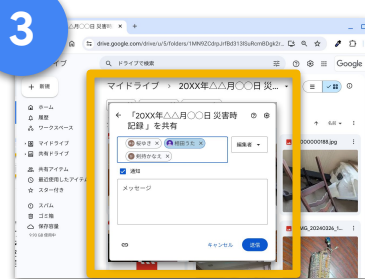
Google ドライブを開き
[新規] → [新しいフォルダ]
フォルダ名「20XX年
△△月〇〇日 災害時
記録」を入力して [作成]

2



[新規] → [ファイルのアップ
ロード]をクリックして
撮影した写真や動画
ファイルを選択

3

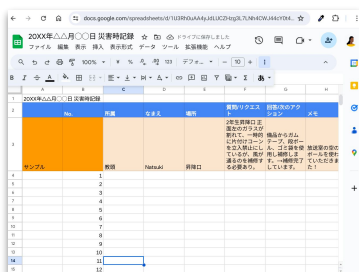


フォルダ名「20XX年△△月
〇〇日 災害時記録」をクリック
し[共有] → [ユーザーのメール
アドレスを入力] → [送信]して
関係者と共有

クラウド上での情報共有の仕方 3 選



Google スプレッドシート



Google スプレッドシートへ
気づきをリスト化して関係者と
共有し記録 & 対応 & 蓄積する



Google スライド



ドライブへ保存した写真を
Google スライドに貼り付け
一言メモを併せて記録を残す



Google サイト



状況が落ち着いた段階で
Google サイトに情報をまとめ
災害時対策サイトとして公開する

PDF版は右記のQRコードからご覧いただけます



Google for Education